

カンボジアのこと

JICA のボランティアとしてカンボジアへの派遣が決まったとき、皆から地雷に気をつけて、危ないところへは行かないと言われていた。私自身、長く戦乱の続いた貧しい農民の国というイメージしかなかったので、JICA の応募書類には「ネパールとマレーシアでのボランティア経験を活かし、ポルポト派支配で壊滅したカンボジアの技術系人材育成のお手伝いをしたい、現地の状況はネパールに近いと思われるが…」と書きました。

ところがプノンペンへ着いてみると、そこは大都会で広い道路はオートバイや自動車であふれ、商店やレストランや町工場が軒を連ねる活気のある街でした。後で調べたら 2000 年の 1 人あたり GDP が 287 ドルであったのが 2008 年には 710 ドルと、年率 10%近い経済成長を続けています。数字で全てを測れるわけではありませんが、少なくともプノンペンでは経済的に豊かな人が着実に増えています。

突然の驟雨

今カンボジアは雨季です。天気は気まぐれで数日雨が降ったら、数日降らないといった調子です。いわゆるスコールで黒雲が急に広がってきてザーッと降ります。この写真はアパートの前の道で 4 階の私の部屋から撮りました。雨が降りだすと道はたちまちプールになります。でも子供たちは気にせず遊んでいます。真中に映っているのはトゥクトゥク(オートバイで引くタクシー)。1 時間後には右の写真のように乾いた道路に戻りました。



勤務先の様子

勤務先はプレアコソマ工業学院という労働職業訓練省傘下の学校で、私の仕事は電子工学(エレクトロニクス)の技術的な支援、指導です。建物の大きさから学生数 600 人位と予想していたら、2000 人というのでびっくりしました。カンボジアでは午前中のコース、午後のコース、夜のコースとあり、学生の中には(先生の中にも)学校を掛け持ちしたり、他に仕事を持っている人が多いそうです。1 つの建物を 3 通りに使うところは、貧しかった時代の日本人の気持ちと合っているような気がします。またプノンペンでは高校進学が普通で、当校の職業訓練のコース(工業高校相当)は学生 100 人以下とあまり人気がなく、6 割が大学、3 割が短大と、工業大学に近い実態に変わってきています。

初出勤した4月21日からちょうど後期の授業が始まったので、学校の様子を知ることと、できるだけ多くの先生方と知り合うために、いろいろなクラスを見学させていただきました。その後2週間の成果は学校幹部と電子科、電気科の教師約20人と話し、顔と名前を覚えたことです。これから先生方1人1人と信頼関係を築きながら活動を進めます。



学生のバイク500台と自転車300台が並ぶ駐輪場。午前中は21クラス約900人の学生(大学、短大)が学ぶ。

チューン先生の電子回路の実験授業 → 日本と同じような指導法です。



休憩時間中の電子科主任ソニー先生(電子機器の修理を教えている)と学生たち。女子学生も1割弱います。

モーターの修理実習をする電気科の学生。 → ヴァン先生が手前で巻き線機を操作している。



レンガ積み実習をする土木科の学生。最近のビルの建築ラッシュで土木科も人気がある。